

令和2年度 学校自己評価表 （最終評価）

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

教育目標	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3 様々な教育活動をおとして、他人を思いやり、友情を育み、さらに心身ともに健全な態度を養う。 4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。
------	--

重点目標	1 心身ともにすこやかな生徒の育成 2 夢や希望をかなえられる学校づくり 3 地域・地元可愛され、信頼される学校づくり 4 専門教育の推進
------	--

年度当初					評価結果	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価
1 心身ともにすこやかな生徒の育成	基本的生活習慣の確立とマナーの徹底【生活部】	・昨年度、『遅刻』と『身だしなみ』については、意識を高くもって取り組み、概ね達成できたと思うが、『あいさつ』については十分できていない。	・『あいさつ』の大切さを理解し、授業の前後や校舎内での様々な場所で、教職員、生徒同士、来校者に対し、明るく気持ちのよい、心のこもったあいさつができる。 ・家庭や地域、様々な場所や場面でも、心のこもったあいさつができる。	・SHRや集会であいさつの大切さを伝える。 ・生徒会執行部と連携して、生徒が主体となった『あいさつ運動』に取り組む。 ・科と連携して、『あいさつ運動』に取り組む。(現在、ビジネス科が週2回実施) ・部活動との連携。 ・まずは、教職員から実践する。	・年間をおとして、生徒が集まる機会(全校・学年・科・服装点検等)で、あいさつの大切さを伝えてきた。 ・ビジネス科によるあいさつ運動の成果は見られた。 ・生徒部と連携を図り、新生徒会執行部によるあいさつ運動を実施した。成果についてはまだわからないが、これからの大きな波としたい。 ・授業前後のあいさつについての啓発が不十分だった。 ・全体的にはあいさつはできてはいるが、まだまだ受身の姿勢が見られ、また、ポケットに手を入れたまま挨拶する生徒もある。 ・遅刻回数が目標値を超えてしまったが、多くの生徒が時間を守って生活している。	B
	部活動・生徒会活動の奨励【生徒部】	・4月末時点での部活動加入率は、1年95.6% 2年96.5% 3年90.1%。未加入者のうち2割は生徒会執行部に所属。課外活動を行っていない生徒は、全体の4.6%という状況。 ・新型コロナウイルスの影響で、各種大会の中止・練習制限等の状況があり、とりわけ3年生のモチベーションの低下が懸念される。	・生徒自らが、主体的に生徒会活動や部活動にかかわっている。	・コロナ禍を踏まえて、新しいスタイルの学校行事を企画・運営することで、生徒の自主性・創造性を育む。 ・未加入者の部活動への加入促進を図るとともに、練習計画・部室管理等を通して自主自立の精神を涵養する。	・新型コロナウイルス感染症に対応した新しいスタイルの学校行事(学校祭・生徒総会等)を企画し取り組んだが、従来の枠を超えるまでには至らなかった。 ・1月末時点でのクラブ活動加入率は、1年95.5%、2年95.1%、3年89.6% 全体で93.4%。 ・3年生の未加入者14人中、5人が生徒会執行部・学校祭実行委員会に参加。 ・定期考査期間中に部室点検を実施。昨年度と比較して一部の部を除き部室の使用状況が改善されてきた。 ・11月の体育祭を2年生執行部中心で運営することで、執行部のスキルアップを図ることができた。 ・服装規定の見直し(土日の部活時の服装・夏服の長袖・ひざ掛け)を通して、ルールは自分たちのもの(作るのも守るのも自分たち)という主権者意識を涵養することができた。	B
2 夢や希望をかなえられる学校づくり	進路指導の充実【進路部】	・具体的な進路目標を定めているが、目標のために何をどのように組みめば良いか計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力が十分身についていない。 ・就職希望者支援体制についてはできているが、進学指導に関しては、個別指導による部分が多い。特に4年制大学への進学指導については大学固有の入試制度の研究など支援体制の整備が必要である。	・計画的に進路行事を実施し、キャリア教育が充実している。 ・学習指導委員会による進学支援体制が確立している。 ・年度内就職内定率100%となっている。	・進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施、職業観・勤労観の育成に努める。 ・入試に関する情報収集を行い入試改革に向けた指導を学習指導委員会で提案していく。 ・進路部と学年団・各科との連携を密にし、学力分析や指導方法について検討していく。 ・12月から2年生の進路指導に取り組み、2月学年末考査後には具体的な進路実現に向けて行動できるよう、計画的に個別に指導していく。 ・新型コロナウイルス感染症に対応するため、職場見学オープンキャンパス、試験に向け、ICTを活用する。 ・定着指導・求人依頼・企業開拓のため、進路部を中心に県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を収集し、共有する。	・就職57名、進学76名(四大7人、短大17名、専門学校52名)の進路が決まっている。就職希望者については全員内定をいただいている。進学希望者の残り1名も方向性が決まっている。 ・入試改革にともない学校推薦型選抜で学科試験や小論文が課されるされるケースが増えたため、個別指導で対応した。 ・本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、就職については応募前見学や就職試験が、進学についてはオープンキャンパスや入学試験がリモートで行われることがあったが、事前に準備をし的確に対応した。 ・2年の進路説明会では、真剣にしっかりと聞いていたとの評価だった。	B
	将来のスペシャリストの育成(資格・検定の取得やインターンシップ)【進路部】	・進路部で資格・検定を推進している。各科目目標としている資格・検定に挑戦している。 ・多くの生徒がインターンシップ・デュアルシステムをとおして正しい職業観を養っている。	・資格取得に意欲的に取り組んでいる。 ・低学年からの進路意識の向上とインターンシップ・デュアルシステムの充実により、勤労観・職業観が育成されている。	・資格取得・上級資格取得のための計画的で充実した補習を実施する。資格試験の情報提供を行う。 ・多様な進路選択を可能にするためにも資格取得にチャレンジするように促す。 ・インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実する。	・各検定試験で受験者が増加している。1年生から難易度の高い検定に合格する生徒、社会人向けの資格検定に挑戦し合格した生徒もいる。 ・M、E、C科のインターンシップ・ビジネス実習については、新型コロナウイルス感染症の影響で、開催時期を延期したが、12月に実施し生徒の職業観や勤労観を養うことができた。	B
	進路に対応できる学力の定着【教務部】	・基本的な学習規律は身についているが、生徒の基礎学力や学習意欲の差が大きく、学習習慣が身についていない生徒が多い。 ・授業時間数の偏りが生じている。 ・出張等による自習時間は減ってきてはいるが、まだ少ないとは言えない。 ・進路に応じた選択科目の履修ができるようにしているが、まだ十分とは言えない。	・学習習慣が定着し、基礎学力の向上が図られている。 ・生徒全員の家庭学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上となっている。 ・授業時間数が確保され、自習時間が削減されている。 ・進路に応じた選択科目が適切に履修されている。	・基礎力診断テストの学習状況調査を活用し、家庭学習の充実を図る。 ・各教科で課題の出し方を工夫し、学校全体として家庭学習を促進し、習慣化できるよう取り組む。 ・朝テスト(2・3年)を実施し、進路に応じた基礎学力の定着を図る。 ・時間割の入れ替えや授業の売り買いを積極的に行い、授業が自習時間とならないように取り組む。	・基礎力診断テストの学習状況調査から、家庭学習が定着していない実態が明らかになったが、十分な手立てを行うに至っていない。 ・全生徒がスタディサプリを使用できる環境を作ることができたが、まだ活用までには至っていない。 ・個々の生徒の中学校段階での学習の積み残しを明確に把握すること、スタディサプリの利用を促進することを目的として、到達度テストを実施した。 ・考査前など、テストに向けての学習はできる生徒が多いが、普段から家庭学習が習慣化している生徒は依然として少ない。 ・3年生は計画通り4月から7月に朝テストを実施し、学習習慣を喚起できた。また、5月と7月に校内模試を実施した。 ・休校等により授業日数が減少したが、行事等の中止や規模縮小により授業時間数は確保できている。また、授業の入れ替えを積極的に行い、自習時間は削減できている。	C
	思考力・判断力の向上【教務部】	・生徒は落ち着いてはいるが、反面、主体的に学習に取り組んだり、自ら考え判断し、自発的に行動したりすることができる生徒が少ない。	・思考力や判断力の育成のために、課題探究的な学習や対話的な学習活動が実践されている。 ・達成感や自己肯定感を持った生徒が多くいる。	・授業公開や授業互見、教職員研修会をとおして学び合いを促進し、授業改革を行う。 ・新学習指導要領に対応した新教育課程の検討をはじめ。 ・学校生活の中で、生徒が活躍できる機会を増やす。	・公開授業を12人全員実施し、事前予告を行って積極的な参加を促したこともあり、参加者も回が進むごとに増えた。 ・教職員のICT研修を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で多くの行事が中止や縮小となったが、スポーツ大会の実施や県内研修旅行等を実施し、生徒が活躍できる機会を増やすよう努めた。	B
3 地域・地元可愛され、信頼される学校づくり	地域とともにある学校づくり(学校運営協議会)【管理職】	・これまでも、各学科を中心に学校と地域がつながる事業が行われている。 ・学校運営協議会は、委員を選出し、今年度から開始することとしている。	・学校運営協議会の仕組みを生かして、地域とともにある学校づくりが進められている。	・目標を共有し、課題の解決を図ったり、教育活動充実のための方策を検討する。	・学校運営協議会を6月と2月に2回実施した。 ・本校の取組を実際に見ていただく機会が少なかった。 ・委員に課題研究発表会を案内し、4名に参加していただいた。	C
	地域への情報発信(積極的な広報活動)【総務部】	・ホームページの記事更新が頻繁に行われ、各科の学習活動や部活動の大会の状況が発信されていた。 ・ビジネス科が作成した学校カレンダーを、学校外の企業や中学校等に配り、情報発信に努めているが、十分な部数がなく、全ての関係団体に配れていない。	・学校行事、部活動の大会成績などの記事がホームページに随時掲載されており、本校の活動の様子が地域に知れ渡っている。	・ビジネス科が作成する学校カレンダーの部数を増やし、他団体に対しても配れるようにする。 ・学校行事については、積極的に総務部から各担当にホームページへの掲載を依頼したり、ライブ配信によって生徒の生の様子を発信する。また、新聞社やテレビ局などマスコミにも適宜情報提供する。	・学校行事が中止や規模縮小され、ホームページへの掲載も少なかった。 ・学校祭、卒業式はインスタグラムによるライブ配信を実施した。	B

年度当初					評価結果			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
3 地域・地元 に愛され、信 頼される学校 づくり	地域・産業界との交流 【各学科】	M ・企業名は知っているが、その企業の業務内容などについては知らない生徒が多い。 ・企業見学やインターンシップなどを実施するが、十分な理解には至っていない。	・企業見学、インターンシップ、社会人講師等をと おとして、自分の希望に関係する企業について 業務内容などを理解している。 ・就職に向けて意識が変化し、資格取得の意義 などについて理解している。	・企業見学、インターンシップ、社会人講師等で 産業界での取組や意識を知る機会を設ける。	・3年生の進路意識高揚をねらいとし、企業見学（モリタ製作所）と先 輩に学ぶを6月に実施した。1・2年生は2月に企業見学を実施し た。 ・オンラインによるWeb工場見学を新たに計画したが、コロナ感染拡 大の影響から実施直前で中止となった。	A	・オンラインによるWeb工場見学は、新しいスタイルの工場見学 として検討する。	
		E ・鳥取県電業協会中部支部との共同作業で、倉 吉交流プラザにイルミネーションを取り付け、地 域に貢献した。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活動を地元 民生委員の方と電業協会中部支部とで連携を し、地域に貢献した。	・イルミネーションの取り付けなど、地域産業と の交流が図られている。 ・地域の家庭に出向き、奉仕活動をすることで 地域住民との交流が図られている。	・鳥取県電業協会中部支部との意見交換会でイ ルミネーション設置について、アイデアの提案等 を行う。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活動前後で 民生委員、電業協会、教職員・生徒との意見交 換を行い連携をとる。	・鳥取県電業協会中部支部との意見交換会は中止となったが、連 絡を取り合い設置・点灯式を無事完了することができた。 ・「電気をとおして福祉を考える」の意見交換会は複数回実施し、住 民の要望も事前に詳しく知ることができ、地域との交流が図られ た。	A	・来年度も地域や電業協会との連携を深め、今後も活動を継 続していきたい。	
		C ・くらそうサロンでは、町内放送などで参加者 を募り、参加される高齢者が増加した。 ・くらそうやは「食のみやこ」「上北条まつり」に 参加し、地域との交流を行った。	・「チャレンジショップくらそうや」「くらそうサロン」 「くらそうビジネスセミナー」をとおして、地域との 連携が深められている。	・「チャレンジショップくらそうや」「くらそうサロン」 「くらそうビジネスセミナー」をとおして、新型コロ ナウイルス感染症の感染予防に配慮しながら、 学習内容の充実に努める。	・新型コロナウイルス感染症の影響で実施回数が減少した。 ・感染症対策を考慮しながらの接客などコミュニケーションの取り方 について、新たに模索する機会になった。 ・コロナ禍での一助になればと、お世話になっている事業所の商品 や弁当の校内販売を実施した。	B	・新型コロナウイルス感染症の状況によるが、「くらそうサロン」 は高齢者の方々とかわるため、配慮が必要となる。 ・新しい形での地域との関わり方を模索する。	
		D ・小学校や福祉施設と交流を行っている。交流 を意欲的に行おうとはしているが、参加してくだ さる方にどう楽しんで参加してもらうかを考えて 計画するまでには至っていない。	・交流する相手方のことを考えて計画を立てら れるようになる。 ・異年齢の方々と交流することによりコミュニ ケーション能力が高まっている。	・福祉施設の方や社会人講師の方々の意見 を伺いながら、交流の計画を行う。 ・学習した知識や技術をいかし、生徒が主体的 に行動できるように指導する	・コロナ禍のなか、社会人講師の方にはご協力いただき、講習を 実施することができた。また、新しい実習先や講師の開拓を行うこと ができた。 ・学習した知識や技術をいかし、生徒が主体的に行動し、交流相手 のことを考えて計画を立てることができた。	A	・今後も継続して取り組む	
	グローバルな人材の育成 （世界規模で考え、地域で行動する人材） 【各学科】	M ・日頃の学習内容は理解できているが、それが 企業活動にどのように反映されているかまで理 解がつながっていない生徒が多い。 ・地元企業で製造された部品が、どの製品に組 み込まれどのように市場に出回っているか知ら ない。	・学習内容が地元で製造した製品を媒体として 世界（社会）につながっていることを理解し、学 ぶことの意識が高まっている。	・先輩たちが就職している企業がどの製品の部 品を製造しているかが分かるような資料を作成 する。	・企業見学などで地元で製造された部品等が産業界にどれだけ貢 献しているかを伝えることはできている。 ・企業を紹介する資料作成はできなかった。	C	・企業に依頼し、各企業A3サイズ2ページのパネルを作成す る。	
		E ・インターンシップや長期インターンシップをとお して、就労意識を高め、基本的な技術を身につ けることができた。	・インターンシップを通じて、就労意識が高まり 、キャリア教育の充実が図られている。	・事前の安全教育をすることで就労を意識する。 ・インターンシップ最終日は各企業が学校に集 まり、生徒に対して一斉の研修を行う。	・実施時期は遅れてしまったが、インターンシップをとおして就労意 識が高まった。	B	・報告書作成や事前指導などの取り組み自体は良いが、日程 的に苦しく、精選する必要がある。	
		C ・ビジネス実習、インターンシップ、課題研究をと おして実社会にかかわり地域の現状を肌で感じ ることができた。	・進路意識の向上とインターンシップ・デュアル システムの充実により勤労観・職業観が育成さ れている。	・地元企業の見学、社会人講師を導入する。 ・インターンシップ・ビジネス実習先の企業や事 業所の新規開拓をする。 ・インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後 指導を徹底・充実させる。	・前期のビジネス実習を中止したが、インターンシップと後期のビジ ネス実習は、検温、体調管理を徹底して実施することができた。 ・コロナ禍で受け入れを辞退される事業所があり、生徒の実習先の 決定に苦労した。 ・社会人講師はほぼ予定通りに実施することができた。	B	・インターンシップ・ビジネス実習先の企業や事業所の新規開 拓をする。	
		D ・自分たちの学習したことがどう地域の産業につ ながっているのか理解できていない生徒が多い。	・地域の産業について理解でき、自分たちが学 習したこと成果などを地域に発信することが できる。	・「企業見学」や「先輩に学ぶ」を実施する。 ・企業等と協同し、「商品開発」を行う。	・課題研究（食物）が「商品開発」を行い、好評だった。また、その取 組みを中部ハイスクールフォーラムで発表することができた。 ・「企業見学」は中止。「先輩に学ぶ」は2月に実施した。	B	・今後も継続して取り組む	
	4 専門教育 の推進	専門分野の基本的知識・技術をもち、チャレンジ精 神に富んだ人材の育成 【各学科】	M ・学校生活を含めて受け身（指示待ち）のスタ ンスをとる生徒が多く、多くの可能性を潰して いるように思う。資格取得においても「合格で なかったら損」など、物事にマイナスの見方をする 生徒が多い。	・積極的に資格取得に取り組み、合格に向けて 努力できている。	・難易度を問わず多くの資格を取得する中で達 成感と自己肯定感を感じさせ、自己を高めるた めのチャレンジ精神を養う。	・新型コロナウイルスの影響で、技能検定（前期：機械保全・旋盤）が中止と なり、就職に向かう3年生にとっては大きなダメージとなった。 ・製図検定、基礎製図検定、技能検定（旋盤）は合格に向けて計画的 に補習を実施できた。 ・CAD検定・技能検定機械検査はともに初挑戦であるが多くの生 徒が受験した。合格に向けて補習等も実施した。	B	・引き続き、多くの生徒が資格取得に向かうよう促す。
			E ・鳥取県電業協会中部支部とのネットワーク会 議を2回開催し、各事業を連携して取り組んで いる。また、同協会に高校生ものづくりコンテ ストの指導を受け、中国大会出場権を獲得した。	・高校生ものづくりコンテストにおいて上位に入 賞している。	・鳥取県電業協会中部支部の指導を受け、技術 の向上を図る。	・数回の技術指導を経て県大会では上位入賞。来年6月に山口県 で行われる中国大会への出場権を2名が獲得した。	A	・中国大会に向け、引き続き技能向上をするため今後も鳥取 県電業協会中部支部の指導を仰ぐ。また、来年度の県大会も 同様に上位入賞をめざした指導を行う。
C ・資格取得に各学年とも積極的に取り組んでい る。 ・計画的に課外授業を行うことができた。 ・社会人講師を活用することで、より専門的な学 習に取り組めた。			・上位級資格取得を目標に積極的に取り組んで いる。 ・資格取得を通して、チャレンジ精神を養ってい る。	・長期休業中や放課後に課外授業を実施する。 ・資格取得に取り組む重要性を生徒に理解させ るよう努める。	・資格取得に挑戦する生徒が増加した。 ・長期休業中や放課後に課外授業を実施することで、生徒の資格 取得をサポートすることができた。	B	・上位級資格取得を目指す生徒に対し、社会人講師を活用す る。	
D ・意欲に個人差があり、取組状況がさまざま である。			・意欲的に取り組むことができ、学習したことを 検定取得やコンテストへの参加に挑戦するこ とができる。	・検定合格、コンテスト等への参加を促す。	・検定の取り組みは例年通りであった。 ・授業の進度とコンテストの締め切りの関係から、コンテストに挑戦 できなかった。	B	・参加可能なコンテストを開拓する。	
学科の枠を超えた取組の実践 （総合選択制） 【各学科】		M ・総合選択制を活用し他学科の科目を積極的に 履修するよう働きかけができている。（A選択・電 気基礎・アプリケーション演習）	・将来を見据えた適切な科目選択ができいて る。	・選択科目説明において、自科のカリキュラムで は学べない内容を総合選択制を活用し習得す るよう指導する。	・電気基礎、アプリケーション演習などの学習内容が就職後にどの ように活かされるか説明し、選択者を募ることができた。	B	・今後も、自学科で学習しない内容を総合選択で履修するよう 説明する。	
		E ・課題研究「くらそうや」の期間中に「おもちゃ の病院」を実施している。また、スイッチを使っ たストラップ「スイッチくん」という商品を提供 している。	・くらそうやに電気科として「おもちゃの病院」及 び「商品提供」ができている。	・課題研究「テクニカルボランティア」をとおし て「おもちゃの病院」を行う。 ・電気工学科と連携して「商品提供」を行う。	・「おもちゃの病院」を開催できなかった。 ・「商品提供」は実施できなかった。	D	・今年度でできなかったことは来年度実施したい。また、選択授 業等で他科との連携を図りたい。	
		C ・課題研究「くらそうや」とおとして、学科間連 携が進んだ。 電気科：「おもちゃの病院」 生活デザイン科：作品、商品提供	・課題研究をとおして全学科で連携を進めて いる。	・「くらそうや」において他学科の生徒の販売実 習を検討する。	・課題研究「くらそうや」とおとして、学科間連 携が進んだ。 機械科：商品提供 生活デザイン科：作品、商品提供 ・他学科の生徒の販売実習は実施できなかった。	B	・商品提供を引き続きお願いしたい。 ・他学科の生徒も参加できる「くらそうや」を検討する。	
		D ・くらそうやへ商品を提供しているが、顧客の ニーズにあった商品が作られていない実態があ る。	・商品を開発し、くらそうやで生活デザイン科 の生徒が販売をしている。	・ビジネス科と連携し、ニーズ調査などを行う。	・ニーズ調査はできなかったが、くらそうやで商品の販売ができた。	A	・学科間連携の方法を模索する	
5 業務改善 の取組	長時間の時間外勤務者の解消 【管理職】	・教員等の平成29年度比時間外業務は15.79%削減 （42.0時間→35.4時間）であった。 ・月時間外業務100時間以上は7人（昨年10人）で14 回（昨年27回）であった。産業医との面接指導を全 員に対して実施した。 ・本校では部活動指導・大会引率が時間外業務の 多くを占めている。	・月当たりの時間外業務が、平成29年度比で 25%削減できている。 ・部活動時間が、平日3時間程度、休業日4時間 程度で行われている。 ・部活動休養日が、週休日を含め週当たり1日 以上設定されている。	・週休日振替、勤務の割振の徹底、年休、夏季 休暇等の取得を推奨する。 ・業務に偏りが生じないよう、分散化を図るなど 組織的に取り組む。 ・毎月の部活動計画の提出を徹底し、点検・指 導する。	・教員等の平成29年度比時間外業務は50.3%削減（12月現在）で あった。 ・月時間外業務80時間以上は1人（1回）であった。産業医との面接 指導を実施した。 ・毎月、全ての部において部活動計画が立てられ、週休日のいず れかが休養日、活動時間は、平日3時間程度、休業日4時間程度 が遵守されている。 ・時間外業務時間の多い教職員が若干名ある。	B	・引き続き週休日振替、勤務の割振を徹底する。 ・業務に偏りが生じないよう、分掌の人員を変更するなど組織 的に取り組む。 ・部活動に係る方針の遵守を徹底する。	

【学科名】 M：機械科 E：電気科 C：ビジネス科 D：生活デザイン科

A：十分達成【90%以上】 B：概ね達成【89～70%】

C：変化の兆し【69～50%】 D：まだ不十分【49～30%】

E：目標、方策の見直し【29%以下】